

日常生活と水

Q. あなたには身近に感じる川がありますか？

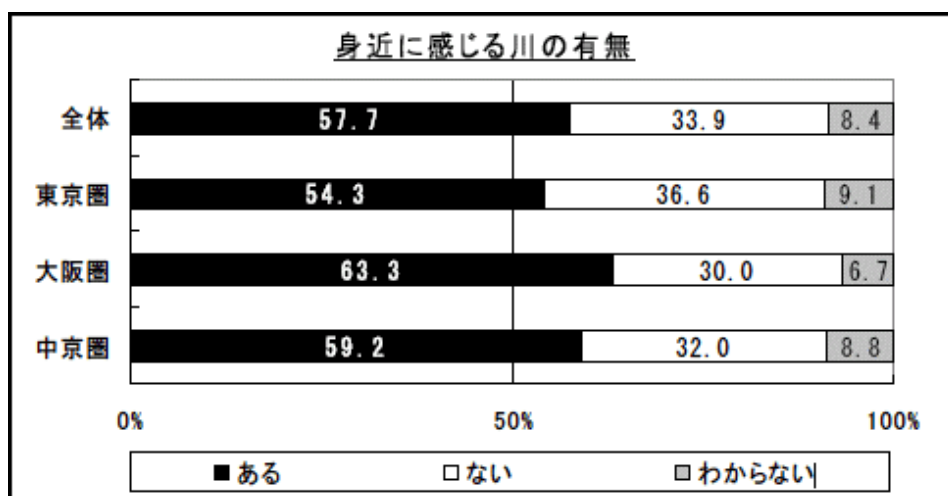
◇約6割が『身近に感じる川がある』

◇大阪圏は『身近に感じる川がある』の比率が高く、東京圏とは9ポイントの差

唱歌に歌われたような身近な川は、今ではもう日本にはほとんど残っていません。

とりわけ大都市は、川に親しみにくい環境といえますが、それでも6割近くが『身近に感じる川がある』と回答しました。

居住地別で見ると、相対的に大阪圏は『身近に感じる川がある』の比率が高く、東京圏とは9ポイントの差が出ました。



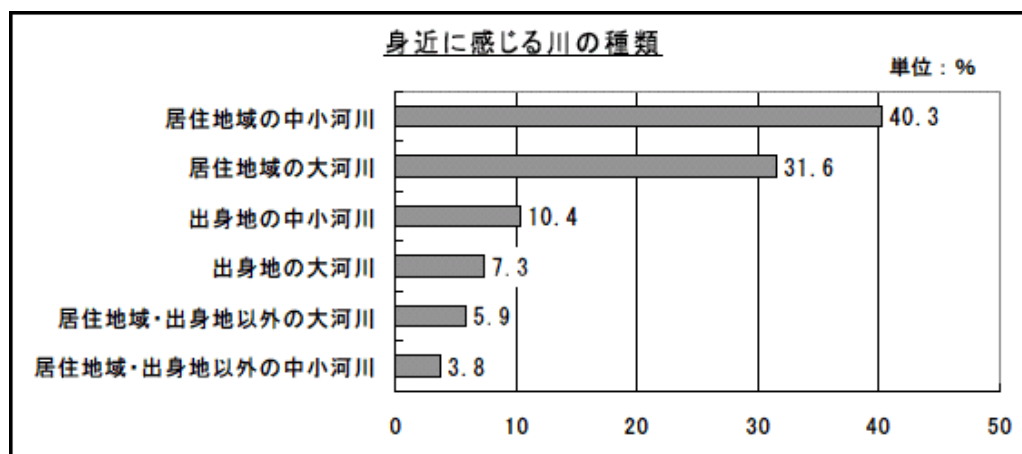
Q. 身近に感じる川はどんな川ですか？

(前問で、身近に感じる川が『ある』と答えた人だけ回答/N=288)

◇7割以上が居住地の河川を「身近に感じている」

大都市居住者が身近に感じる川はどんな川でしょうか。

1位『居住地の中小河川』(40.3%)、2位『居住地の大河川』(31.6%)と続き、7割以上(71.9%)が現在の居住地の川を「身近に感じている」という結果になりました。



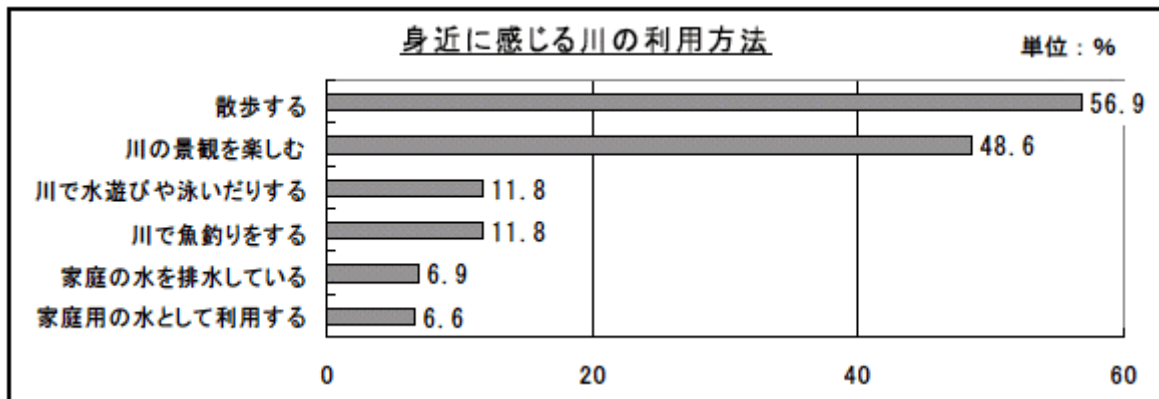
Q. 身近に感じる川をどのように利用していますか？

(前問と同様、身近に感じる川が『ある』と答えた人だけ回答/N=288)

◇「身近に感じる川」は“ヒーリングスポット”～『散歩』と『景観を楽しむ』がトップ2

「身近に感じる川」をどのように利用しているか聞きました。

トップは『散歩する』で56.9%、次いで『川の景観を楽しむ』の48.6%でした。レジャー・娯楽や日常生活への利用は相対的に少なく、「身近に感じる川」は休息や安らぎを与えてくれる川と言えそうです。



Q. 具体的に身近に感じる川は？

(前問と同様、身近に感じる川が『ある』と答えた人だけ回答/N=288)

◇東京圏『多摩川』、大阪圏『淀川』、中京圏『木曾川』

「身近に感じる川」を1つだけ挙げてもらいました。

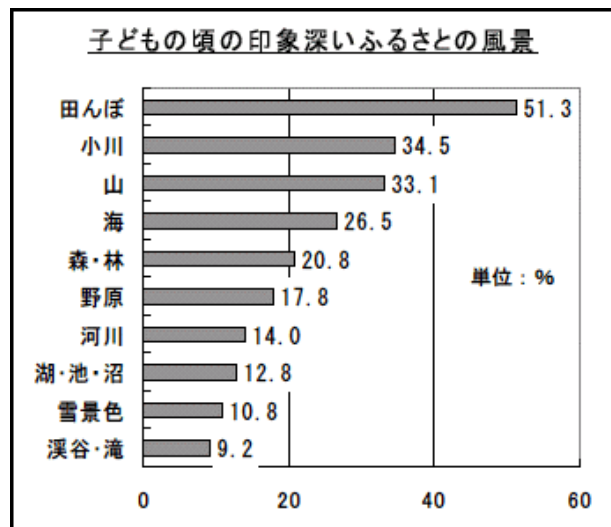
回答は分散しましたが、居住地近くの有名河川の名前が比較的多くの回答者から出ました。

	東京圏	大阪圏	中京圏
1位	多摩川 (18.8%)	淀川 (17.1%)	木曾川 (20.3%)
2位	荒川 (14.5%)	大和川 (14.5%)	長良川 (12.2%)
3位	利根川 (8.7%)	武庫川 (7.9%)	矢作川 (6.8%)

Q. 子供の頃の印象深いふるさとの風景は？

◇『田んぼ』『小川』『山』がトップ3

子供の頃のなつかしい思い出と結びつけた、印象深いふるさと風景について聞きました。その結果1位は『田んぼ』(51.3%)で、唯一半数を超えました。以下『小川』(34.5%)、『山』(33.1%)、『海』(26.5%)、『森・林』(20.8%)、『野原』(17.8%)、『河川』(14.0%)、『湖・池・沼』(12.8%)、『雪景色』(10.8%)、『溪谷・滝』(9.2%)などと続きました。



Q. 思い出に残る「水遊び」は、何歳頃、どこで、何をしたことですか？

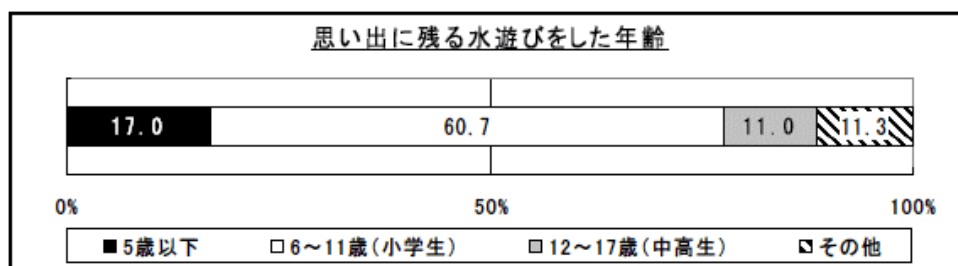
◇『小学校の頃』(60.7%)、『海で』(39.5%)、『水泳をした』(28.5%) 思い出

思い出に残っている印象深い「水遊び」または「水辺での遊び」について、何歳の頃、どこで、どのような種類の遊びをしたかを聞きました。

年齢については約6割が『6～11歳(小学時代)』としており、思い出の「水遊び」の場所は『海』(38.3%)が1位でした。また「水遊び」の種類については、『水泳』(27.5%)、『ザリガニ、めだか等の小魚とり』(16.4%)、『行水・水浴び』(12.6%)がトップ3でした。

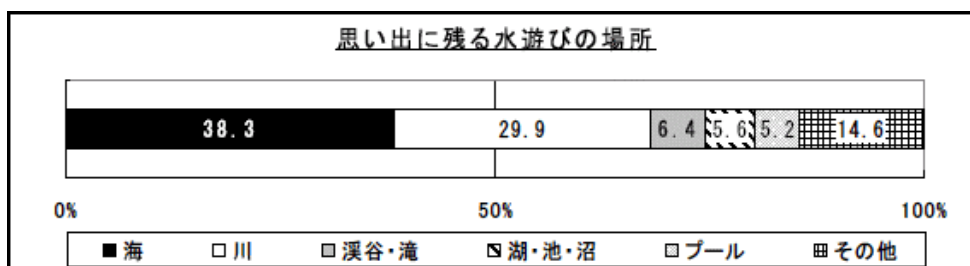
■何歳頃の思い出か？(年齢を記入)

60.7%が『6～11歳』の頃と答え、『5歳以下』が17.0%で続きました。



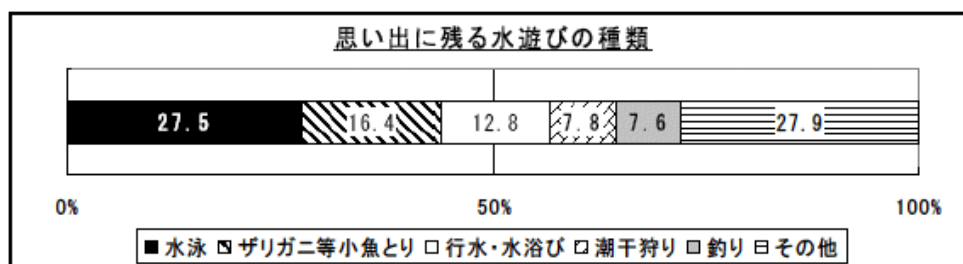
■どこで体験した思い出か？(14 択+その他)

『海』が38.3%でトップ。以下『川』(29.9%)、『溪谷・滝』(6.4%)、『湖・池・沼』(5.6%)、『プール』(5.2%)、などと続きました。



■どんな「水遊び」をした思い出か？(17 択+その他)

トップの『水泳』(27.5%)以下、『ザリガニ、めだか等の小魚とり』(16.4%)、『行水・水浴び』(12.8%)、『潮干狩り』(7.8%)、『釣り』(7.6%)、『その他』(27.9%)などと続きました。



Q. 思い出の「水遊び」を最近しましたか？

自分の子供（孫）にその水遊びを体験させたいと思いますか？

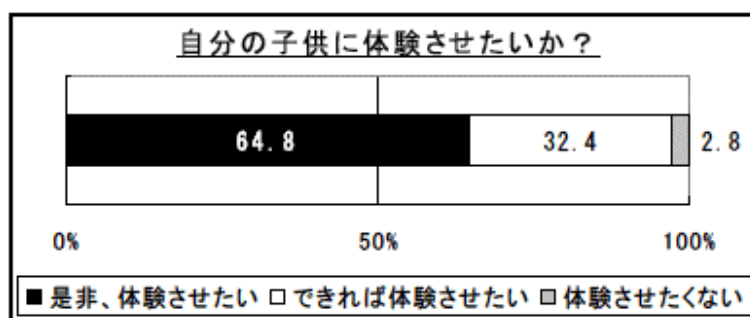
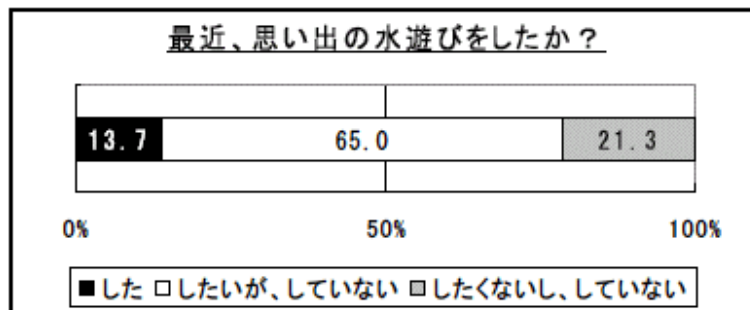
◇65%が思い出の「水遊び」を『したいが、していない』

◇自分の子供にも『是非（体験）させたい』が64.8%

前問の「思い出に残る水遊び」について、「最近、その遊びをしたか?」、「その遊びを自分の子供や孫（いない方の場合はいると仮定して）に体験させたいと思うか?」の2点について答えてもらいました。

「最近したか?」については、『したいが、していない』(65.0%)が大多数を占め、実際に『した』のは13.7%にとどまり、ました。

「子供に体験させたいか?」については、64.8%が『是非させたい』と回答、『させたくない』はわずか2.8%でした。



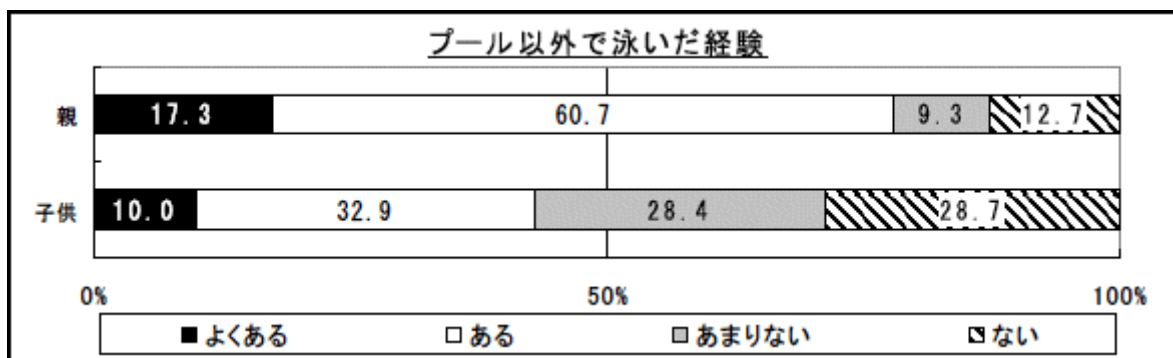
Q. あなたは海・川・湖などのプール以外で泳いだことはありますか？

あなたの子供はどうですか？（子供 孫がいる人だけ回答/N=380）

◇6割近くの子供が『プール以外ではほとんど泳いだことがない』

本人(大人)と自分の子供について、自然の海・川・湖で泳いだ経験を聞きました。

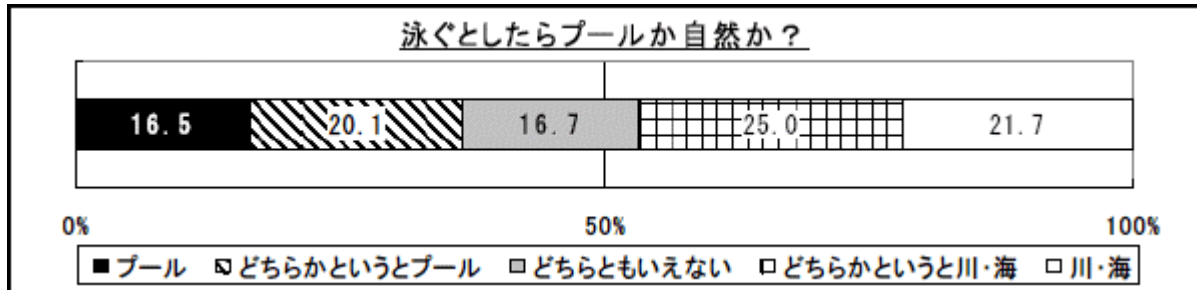
本人の場合は、78%が『よくある』または『ある』としていますが、自分の子供については『ない』がおおよそ4人に1人以上(28.7%)。『あまりない』(28.4%)と合わせると過半数(57.1%)の子供が、自然の水ではほとんど泳いだことがないという結果になりました。



Q. 泳ぐとしたら「清潔なプール」と「自然の川・海」のどちらがよいですか？

◇ “自然派” が “プール派” を 10 ポイント以上上回る

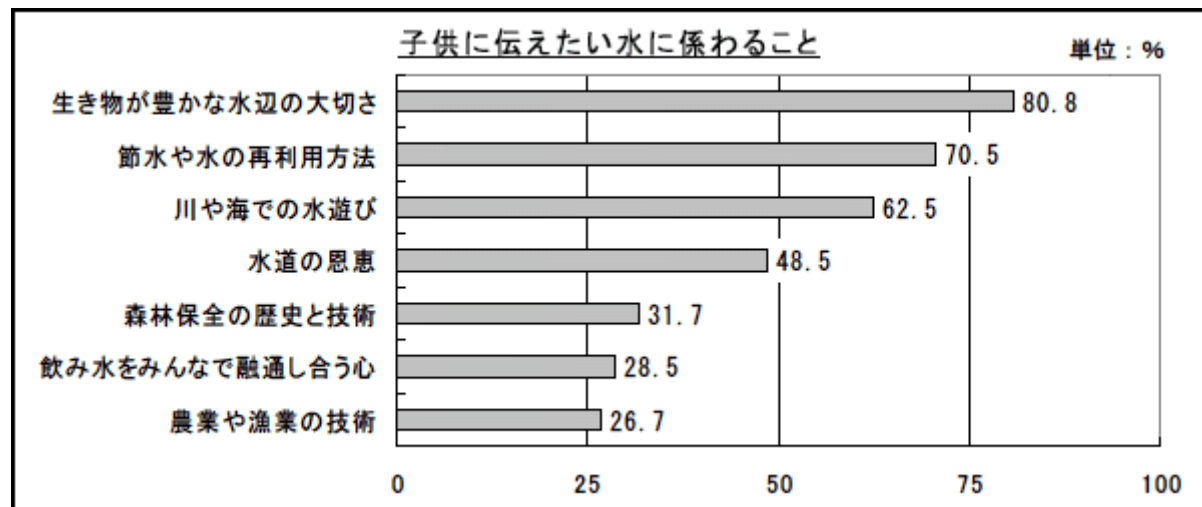
“自然派”（『自然の海や川がよい』と『どちらかというと海や川がよい』の合計）が 46.7%、“プール派”（『清潔なプール』と『どちらかというとプールがよい』の合計）が 36.6%で “自然派”が優勢でした。



Q. 水にかかわることで、子供に伝えたいと思うことは？（10 択+その他/複数回答）

◇ もっとも子供に伝えたいことは『生き物が豊かな水辺の大切さ』

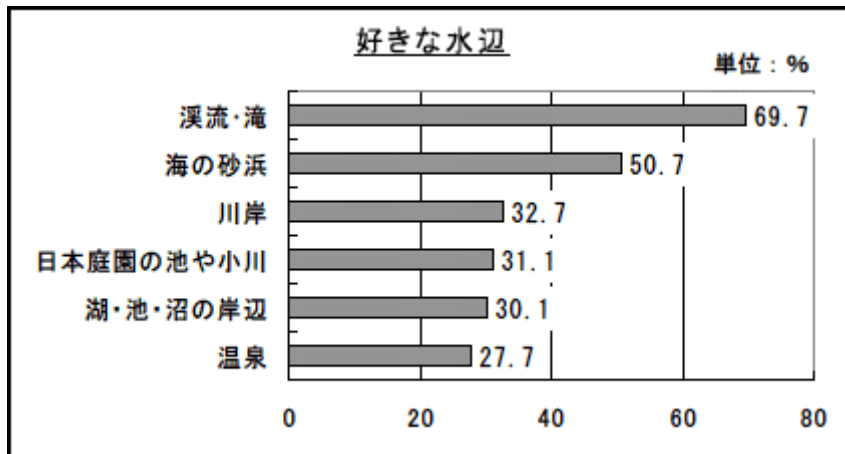
「水遊び」に限らず、水に係わるあらゆることで、子供に伝えたいことを聞きました。トップは『生き物が豊かな水辺の大切さ』で 8 割強。以下『節水や水の再利用方法』（70.5%）、『川や海での水遊び』（62.5%）までが過半数に達しました。



Q. あなたが好きな水辺は？（15 択+その他）

◇都会人の人気トップは『溪流・滝』（69.7%）

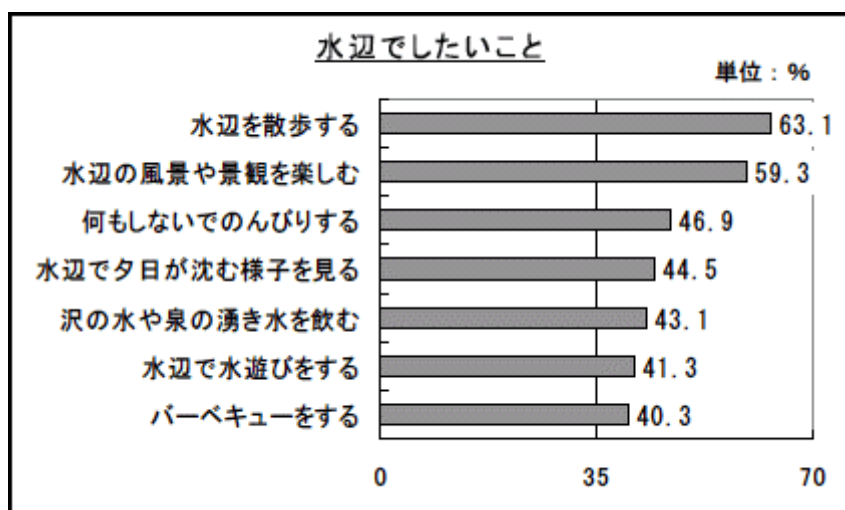
都会人にとっては、身近な存在ではなくなった水辺が1位・2位を占めました。まず『溪流・滝』（69.7%）が約7割で圧倒的なトップ。『海の砂浜』（50.7%）も半数を超えました。



Q. 水辺でやってみたいことは？（22 択+その他）

◇トップ3 は『散歩』『風景や景観を楽しむ』『何もしないでのんびり』

1位・2位の『水辺を散歩する』（63.1%）、『水辺の風景や景観を楽しむ』（59.3%）が半数を超えました。以下、『何もしないでのんびりする』（46.9%）、『水辺で夕日が沈む様子を見る』（44.5%）など、上位には「静かに自然を楽しむ」という回答が並びました。回答率4割を超えた上位7項目を見ても、能動的な活動としては6位の『水辺で水遊びをする』（41.3%）と7位『バーベキューをする』（40.3%）くらいです。



Q. 水のありがたさを感じる時？（11 択+その他/複数回答）

◇ありがたさを感じるトップ3は『給水制限が行われているとき』『のどの渇きを癒すとき』『自然の水に接するとき』

大都市生活者が「水のありがたさ」を感じるのは、どんなときでしょうか。

1位『給水制限が行われているとき』（65.5%）、2位『水を飲んでのどの渇きを癒すとき』（63.3%）、3位『海や川などの自然の水に接するとき』（54.1%）のトップ3が半数を超えました。

